電話相談から

お医者さんの話がラクラクわかるための
知りたいシリーズ 2

moshi moshi

Vol.2
March 1997

お医者さんと上手にコミュニケーションしましょ

[今月の特集]

鼻水が止まらない子

大人も花粉症に悩む春先ですが、子供も例外ではないようで、最近では「鼻水が止まらない」という電話相談が目立ちます。しかし、考えてみると、本来子供はよく鼻をたらすものなのかも。子供のことを「鼻たらし小僧」なんていった時代もあったのですよ。

でんせんせいなんぞくしゅ 伝染性軟属腫（水いぼ）

顔、腕、背中、尻などの皮膚にできるいぼ。一般には水いぼと呼ばれていて、できるのは主に子供。原因はポックスウイルス。皮膚の接触で感染する。治療はピンセットでとる、液体窒素で焼く。硝酸銀を薄めて塗るなどだが、子供には苦痛で根治しにくい。が、放っておいてもそのうち免疫ができて半年、遅くとも数年の間に自然に治っていく。これに似ているのがいぼと呼ばれる尋常性疣贅。原因はひと乳頭ウイルス。こちらも自然に治るが、液体窒素による凍結などの方法もある。

いんのうすいりゅう 陰嚢水瘤（陰嚢水腫）

睾丸のまわりに滲出液が溜まるトラブル。交通性と非交通性がある。交通性というのは滲出液が溜まっている袋と腹腔とがつながっているもの。出生時にすでに水が溜まっているものの大部分はまもなく非交通性となり、滲出液が吸収され治ってしまう。交通性の場合は、針を刺して液を抜くこともあるが、そけいヘルニアを合併していれば手術となる。

同じようなものに精索水瘤がある。これは睾丸から出ている管（精索）の周囲だけに滲出液が溜まったもの。睾丸が3つあるように見えることも。

この小冊子の内容は「医師による発育・発達・病気の電話相談」からの内容を抜粋したものです。

03-3219-0797　**毎週水曜日 14時～17時に受けつけています**

監修
横田俊一郎先生（横田小児科医院）

構成／泉美智子　イラスト・レイアウト／いとうやすこ

（GEN-MH-G02）

鼻水が止まらない子

鼻水が1年半も止まりません。
慢性鼻炎といわれたり、
アレルギー性と言われたり。
でも、薬はまるで効きません。

－ 2才3か月のTくんのママとの電話相談から －

―風邪をひいてから鼻水が止まらないのです。

先生●かかりつけの先生はどんなふうにいっていますか。

―最初は慢性鼻炎ということで薬をもらっていましたが、治らないのでアレルギー性のものかもしれないからと抗アレルギー剤を出されたこともありました。それも、目に見えた効き目がないのでいまは飲んでいません。先生も迷っておられるみたいです。

先生●小児科にはこのような患者さんが珍しくないのです。私の患者さんの中にも鼻水が止まらないといって1年じゅう来る人が何人かいます。原因によっては鼻水を簡単に止めることができないというのが現実なのですね。

―考えられる原因は何なのでしょうか。

先生●鼻水がずっと出ていて考えられる病気は①蓄膿症、②アレルギー性鼻炎です。子供の場合は、免疫の力が少し弱いために鼻水が止まらないということもあります。

―アレルギー性鼻炎であるなら、アレルギーの検査をすれば治療があるということですか。

先生●アレルギーの検査でアレルゲン(アレルギー症状の原因物質)がわかればそれを取り除けばよいのですが、難しい場合もあります。ただ、こんな場合、抗アレルギー剤を長期に飲むことで治っていくこともあります。

―何年もですか。何年も薬を飲むなんて怖い感じ…。

先生●怖いということはありません。また、抗アレルギー剤は効かないなどという説もあるようですが、実際にはこれが効いたと思える患者さんは結構います。

―私の子のように1年半も鼻水が止まらないという場合、先生だったらどうなさいますか。

先生●私は本人が元気で鼻水が出ることで困ることがないなら、あまり薬は使わず、本人が大きくなって自然に治っていくのを待つように勧めますね。「鼻水がでても困ることがないならよい」という考えです。

―確かに子供は元気ですが、鼻水がたまっていると集中力がなくなるのではないか、子供からきらわれるのではないかと、そんな不安も出るんです。

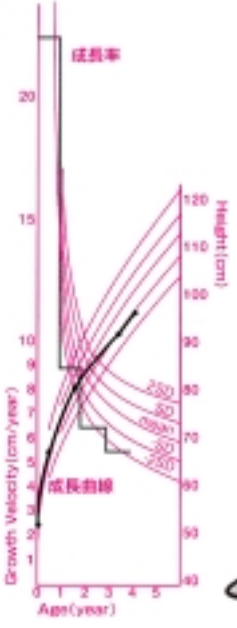
先生●体重と身長からは問題ないようですね。

―親ごさんとしては当然の悩みでしょうね。しかし、すぐに治るものでないなら、いまに治ると信じてのんびり待つ手ではないでしょうか。昔は子供のことを鼻たらし小僧といったように、昔の子供はいつも鼻をたらしていたものです。それでも中学生で鼻をたらしている子はいませんでしたから、やはり昔も成長につれて治ったのでしょう。

低身長

ケース 1

大きく生まれたのに、4才3か月で96cmの男の子。



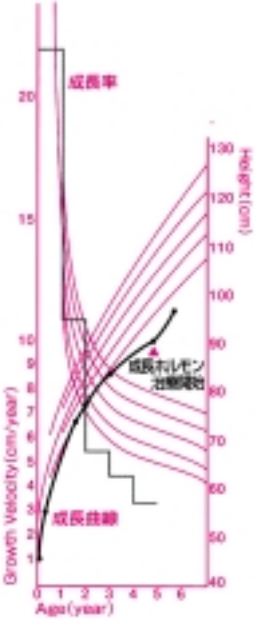
Q 生まれたときは51.5cmと大きかったのに、7か月で67cm、1才8か月で80.4cm、男の子なのに、いま4才3か月で96cmしかありません。普通は4才で1mくらいですよね。父親は現在、187cmですが、同級生にくらべてあとになって伸びたと聞きます。この子も、いまにグンとのびるでしょうか。

A 大きく生まれたのに今は少し小さめですね。最初の半年の伸びが悪く、成長率が少しずつ標準値を下まわっています。お父さんに似て高校生になってから伸びるかもしれませんが、思春期まではいまの成長曲線に沿っていくでしょう。思春期までの背の高さの程度は、2から3才くらいまでに決まり、そのまま思春期までいく場合がほとんどですから。あとは思春期がいつ来るか。早く来すぎると低身長で終わる可能性があります。まだ-1SD前後の正常身長ですから経過をみてよいと思います。

5才で1mを越えればまあいいと考えてください。5才で1mを越えなかったらまた電話をください。みてもらう場合、普通の小児科ではなく、小児内分泌の専門医がよいので、専門医を紹介します。

ケース 2

4才9か月で90・5cm。極端に小さい女の子

Q 女の子ですが、4才9か月で90.5cmしかありません。45.6cm2510gと小さく生まれ、黄疸が強く、体重の増えも悪いことから生後3週間も入院していました。1才半で73.4cm、3才で83.4cm。まわりのお子さんとくらべて極端に小さいので不安です。

A もともと生まれたときの身長が低いので、そのための低身長(胎内発育不全低身長)の可能性はあります。しかし、成長率がおちても2才までには少し追いついたようにみえたのに、このところ急激に伸び率が落ちていますね。すぐに入院して検査をしたほうがいいですね。検査してみないとわかりませんが、かなりの確率で成長ホルモンの異常がみられ、治療することが可能になると思います。早速、最寄りの専門病院に連絡してください。最初は外来で血液検査や尿検査、手のレントゲンなどのスクリーニング検査をします。それで成長ホルモンの分泌低下症が疑われた場合は1週間ほど入院して検査となります。〈入院検査の結果、成長ホルモン分泌全性低身長症と診断され、治療を受けて順調にキャッチアップ(追いつき現象)がみられています。〉